



## Bari Challenge University

Bari Challenge University (BCU) は、企業理念の体現のために教育事業の一環として2016年に開始した、社会変革者を生み出すためのワークショッププログラムです。

全国から若者が今治に集まり数日間生活を共にする中で、夢にチャレンジするキッカケを作る。FC今治アドバイザリーボードもBCUに参加し、若者の挑戦を全力で支援する活動です。これまでの約300名の卒業生を輩出してきました。

**活動場所** : みなと交流センター（はーぱりー）他

**取組テーマ** : 持続可能な地域づくり

**協働者** : 企業／NPO／住民／学校／行政

**協働者名** : 協賛企業：医療法人社団輝生会、三浦工業株式会社

### 活動で工夫した点

初回は2泊3日、翌年は08会の開催、3年目は50人の規模縮小、そして4年目は08が中心での運営、25人での1週間のプログラムにするなど、開催方式を模索しながら進めてきました。4回目は08の発案で3日間のフィールドワークを入れたプログラムにしたことで、今まで以上に現実的で継続的に活動が続けていく価値のある発表が多かったと思います。

### 活動で大変だった（苦労した）ポイント

08/06に企画運営の主体に加えたことで、これまでの彼らの経験から前項に記載したような開催形式の変更を加えたり、とりリニューアルされた2019年のBCUを開催しました。その中で現地での活動量が増え、例年以上に実践的な、そして熱のこもったアイデアがたくさん生まれたことは運営側の苦労がありましたが、その分大きな達成感につながりました。

### クラブや地域の活動後の変化

当初、賞は学長賞のみの設定でしたが、審査中にアドバイザリーボードの中から気になったチームのアイデアに、個人的にサポートを行うと声が挙がる場面もあり、素晴らしいアイデアがたくさん出て、協働者も本気になり取り組みを支援することとなりました。



### 協働者の声

- 藻谷浩介氏（株式会社日本総合研究所 主席研究員）  
「BCUを卒業生が主体となって運営する」と聞き、「本当にできるのか？」と疑問を持った。しかるに彼らはやり遂げた。なによりもそのことに深い敬意を表する。」
- 青野慶久氏（サイボウズ株式会社 代表取締役社長）  
「完全にリニューアルされた2019年のBCU。大成功だったと思う。現地での活動量が増え、例年以上に実践的な、そして熱のこもったアイデアがたくさん生まれた。」
- 宮城治男氏（NPO法人ETIC 代表理事）  
「全国から集った学生たちが地元の方さながらに強い思いを持って地域の課題を語る姿に感動した。実際に提起してくれたテーマは地域の課題を鋭く捉えたものだったし、さっそく行動を起こし始めた学生もいる。私はそこに、真にアクションや未来に繋がる地方創生のありかた、まだ次代が必要としている大学の未来の形を見た気がした。」

### 参加者の声

参加者からは「自分の心を打ち明けられない内に相手の心を開こうとしても意味がないことを学んだ」「本音で話すことの大切さと難しさを特に学んだ」など、自分自身やメンバーと本気で向き合い、真剣に議論を続けたからこそ感想が並びました。また、「志と使命感を持って生きていきたいと強く思った」「自分が動けば今治の人を動かせると確信した」との声もあり、次世代のリーダーとしての志や、社会変革への意気込みが感じられました。

### 活動の「ここぞ！」というPRポイント

本プログラムがきっかけとなり、起業や海外留学に挑戦する08/06が続々と生まれるなど、若者にとっての「志の原点」、そして当社にとっての「次世代のリーダーを生み出す拠点」となる取組みです。

### 補足

参考：(<https://www.youtube.com/watch?v=o3zWaN6m2uw&t=38s>)  
(<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000012.000028025.html>)